

■20110731 戦略経営研究会×青山社中議事録

日 時：2011年7月31日(土) 15:00-18:00

場 所：東京・新宿 LEC東京リーガルマインド新宿西口本校

テーマ：久保田崇氏「官僚に学ぶ仕事術」出版記念フォーラム<未来を創る仕事術>

発表者：久保田崇氏（公務員）

対談者：新田大介氏（戦略経営研究会代表）

参加者：参加者 70人（発表者除く）

発表：「官僚に学ぶ仕事術」と霞が関の未来

【目次】

1. 本を書いた理由
2. 読者の反応
3. 官僚の生態
4. 英国で気付いた日本病
5. 挑戦する人々
6. まとめ

0. イン트로ダクション

本日付で内閣府を辞職し、明日より陸前高田市の副市長に就任します。

（なお、陸前高田市の副市長に就任したいきさつについてのお話もありました）

1. 本を書いた理由

内閣府では、ニートやひきこもりなどの若者政策を主に担当していました。

若者の定義ですが、現在では30代も含まれています。

具体的には、子ども・若者育成支援推進法の成立に携わりました。

背景として、ニートは、ハローワークにもいけない。この問題が大きくなっていました。

（自分の周囲を眺めてみると、）余裕のない働き方をしている人が多いことに気付きました。

それは、日本をひっぱっていくべき若者に余裕がないということです。

非正規社員を増やすという企業の選択により、以前より正規社員の業務量、責任が増してしまいました。正規社員には過度のプレッシャーがかかっています。

さらに、頑張った結果が将来的に報われるか、わからない。たとえば、将来、昇進も

できないかもしれない。

(自分のことだと、) 国会対応で倒れたこともあります。
それから、仕事を早く片付けて家に帰って、自分を磨く、そして、家族と一緒にいることが大切と考えるようになりました。
このことが、日本再生のために必要です。

多くの業務をいかに効率的に処理するか、上司といかにコミュニケーションをとるか、霞が関の仕事と、ビジネスパーソンの仕事の違いはありません。
このノウハウを紹介したかった、というのが「官僚に学ぶ仕事術」を書いた理由です。

具体的な内容としては、

「官僚に学ぶ仕事術の目次」

- 第1章 霞が関の多忙さを紹介
- 第2章 上司とどう付き合うか、人脈術と捉えている
- 第3章 読書術、フォトリディング。法案作成のために資料を読み込んでいるため
- 第4章 英語術。勉強する時間がない。時間さえあれば……。勉強の工夫の仕方、楽しく英語を学ぶやり方
- 第5章 ワークライフバランス。英国での経験から。仕事に従属するのではなく
- 第6章 なんのための仕事術か。会社のためではない、自分自身のため、自分の未来を切り開くために

2. 読者の反応

「官僚に学ぶ仕事術」ですが、現在9刷まで行っています。

霞が関について。改善する点はたくさんあると思います。が、恨みも何にもありません。みなさん、一生懸命に働いています。ただし、効率的でないところもあります。霞が関の暴露本ではなく、ビジネスパーソンや公務員の自己啓発のために、何ができるかというのを書きたかった。

出版にあたり、心配もありました。霞が関には、出る杭を打つ傾向があるからです。そして、官僚の書いたビジネス書は少ないです。しかし、出版してみたら、心配するほどではなかった。

内閣府の人事課長に、出版の事後報告に行きました。ちょっと心配していたのですが、

若手の官僚にこの本の内容を伝えてほしいと言われ、拍子抜けしました。

出版に対しては、ポジティブなフィードバックが多いです。

フェイスブックでも、面識のない地方公務員の方から好意的なメッセージをいただきます。地方公務員も霞が関と同じような業務をしています。理不尽を感じる部分があるのは同じです。共感してもらえています。

読者の反応には、官僚が国会の質問に忙殺されているのが問題だというものも少なくありません。

仕事術を本のタイトルとして、仕事の効率化のことを書いているのに、国会待機は無駄ではないかという反応もあります。

私としては、まずは霞が関という現場の問題点を炙り出したかったというのがあります。

また、別の読者の反応では、よく本を書く時間がありますねというのもありました。

職場に行く前の朝時間を活用しました。また、年末年始の休みも使いました。

それでも、2か月ぐらいで書くことができました。

以上のような読者の反応をいただき感じたのは、官僚はもっと外に向かって発言しようということです。

霞が関では黒子に徹する人が多いのも確かです。しかし、(霞が関の現状を)世に問うことも必要でしょう。その手段の一つが、今回のビジネス書出版でした。

このことは、世の中の貢献になると考えています。

3. 官僚の生態

残業は、月間平均100時間を超えます。

官僚も世代間で考え方が違います。

40代、50代は、逃げ切りタイプです。天下りなどこれまでの制度の中で生きていこうという考え方です

30代は、天下りは無理だろうとわかっています。また、これから給料も下がるだろうと考えています。将来への不安感を抱えていますが、目の前の仕事に追われて、あきらめています。

20代は、従順です。言われたことはしっかりやります。素直です。頼んだら、全部やってくれます。仕事への疑問もないようです。達観している？感じます。

就職活動をしている学生とも会いますが、安定志向が強いです。とはいえ、公務員も大企業も安定的ではないのが現状なのですが。

4. 英国で気付いた日本病

5年ぐらい前に英国へ留学しました。リーマンショック前で、英国経済が調子の良い時期でした。

サッチャー政権以前は、英国病が蔓延していました。英国病とは、古いタイプの行政と、高福祉です。いまの日本に似ています。

日本ですが、失われた10年により、日本の自信も失われました。できない理由を探すという風潮が社会に蔓延しています。

しかしながら、戦後の焼け野原から、現在、世界第3位の経済大国であることはすごいことです。奇跡的です。

幕末、明治維新も奇跡です。その40年後には、当時の大国ロシアに勝ったほどです。こんな国は中々ないです。

日本人にはこういう血が流れていることを強調したいです。

日本人は逆境に強い。ただし、逆境になるまで問題を放置はするのですが。

そろそろ日本人の実力を出さないとまずい時期に来ています。

5. 挑戦する人々

リスクを取って起業する英国エリートがいます。

また、青山社中を起業した経産省、文科省キャリアもいます。

安定はないのが今後の日本社会です。

だからこそ、挑戦し続け必要があります。

6. まとめ

人生を切り開くためにあるのが、仕事術です。

官僚はもっと発言しよう。

日本人は、日本の長所に目を向けるべきです。

挑戦し続けることが、良い結果を生みます。

最後になりますが、陸前高田市の復興のためにお力をぜひお貸してください。

「久保田崇氏×新田大介氏による仕事術対談」:

- ・仕事術は手段。目的を達成し、生産性を上げるためにある。
- ・公務員とビジネスパーソンの成果評価の比較

公務員の場合

- ・見えにくい。評価システムがないといっても良いぐらい。
- ・フィードバックが見えてこない。
- ・失敗なくやればよい。挑戦しない。前例踏襲型になってしまう。

ビジネスパーソンの場合

- ・いろいろ。営業とか、企画とか、事務とか。
- ・営業はわかりやすい。売上、利益という数字で表れる。
- ・企画は、評価しづらい。
- ・行動特性で評価することもある。数字で表すことが重要。

- ・組織／環境を変えていくための仕事術

組織／環境を変えていくことは、誰からも頼まれていない仕事。

本来、やらなくてはいけない仕事に入っていない。

しかし、本業ではない部分でやっていたけど、本業にかかわってくることもある。

これから、そういうことが増えていくのでは？

ネットワークが次のステップにつながる。

興味のおもむく方向。自分の意思を大事にする。

- ・まとめ。

仕事をいかに楽しんでいくか。

未来を創るために、自分を見据えていこう。

このほか、参加者全員による「明日から使える仕事術ワークショップ」を行いました。

以上